

HAKUOH JHS NEWS

白鷗大学足利中学校新聞 -vol.103-



発行所／白鷗大学足利中学校新聞委員会 足利市伊勢南町4-3 TEL.0284-42-1131

体育祭スローガン

羽ばたけゴールのその先へ 疾風怒濤の時代を創り出せ

10月6日(日)縦割りチーム対抗の体育祭が行われた。本来は、前日の5日(土)に開催する予定だったが、天候不順のため翌日に開催されることになった。なお、体育祭当日も途中、雨に見舞われることがあったが、生徒たちは全身全霊で競技に取り組んだ。

総合優勝！ 橙組



優勝
橙組組長 吉田 浩太郎

「絶対勝つぞ！」と円陣を組んで始まった。去年は最下位だった体育祭。今年はなんととして

でも優勝したかった。だから、組長としてメンバーを引っ張っていきたくった。しかし、作戦を立てる時、上手くまとめることができなかった。その時、メンバーがアドバ

イスをくれたのだ。そのおかげで、自信をもって人前でも話せるようになったのだ。
迎えた体育祭当日。作戦通りにいかないこともあった。しかし、勝つことを諦めず全力で取り組んだ結果、総合優勝をすることができた。最後の体育祭で最高の思い出を作ることができた。勝ったのもメンバーが支えてくれたからだ。本当にありがとう。心から感謝している。

最後の体育祭

赤組組長 高橋 庵

私は今年の体育祭で助け合うこと、本気で取り組むことの大切さを実感した。そして、仲間と一緒に赤色のTシャツを着て臨んだ競技では、保護者の応援の声に包まれながら、練習の成果を生かすことができた。特に、私が参加した「宅配便リレー」では何回も箱の持ち方や渡し方、走る速度を確認して本番に挑むことができて思い出に残った。また、リレーを走り終わった後の観客の拍手

準優勝！ 青組



と笑顔。残念ながら優勝は逃してしまったが、前日まで練習と話し合いを重ね、みんなが目標に向かって突き進む姿を私は忘れる



ことがないだろう。この経験を生かし、残りわずかな中学校生活も楽しんでいきたい。
体育祭で学んだこと
桃組組長 佐野 瑞樹
中学校最後の体育祭、残念ながら結果4位だった。悔しいという気持ちもあるが、チームで一所懸命に練習に励んだり、真剣に策略を練ったりした結果だと思えば、さすがいい気持ちになった。メンバーも出せる限りの力を出し、頼りない自分に付いてきてくれたことが何よりも嬉しい。また、このメンバーと戦えるのが、これで最後かと思うと、非常に残念でならない。後輩たちは来年度も体育祭があるから、優勝を目指してどうか頑張ってください。



体育祭で仲間と協力することの大切さや物事に

楽しかった体育祭

青組組長 星野 明利

私たち、青組の目標は、みんな楽しんで活動することだった。そのため、組別ミーティングでは、一人ひとりができるだけ好きな競技に取り組みめるよう考えながら、参加メンバーを決めていった。しかし、ミーティングや練習をするうちに、「勝ちたい」という気持ちがだんだんと芽生え始めた。競技の作戦を立てている時、みんなの目が真剣そのものだった。

だから、体育祭前日、円陣を組み「絶対に勝つ

ぞ」と気合を入れた。当日の結果発表。惜しくも準優勝だった。優勝は逃したものの、目標であった体育祭を楽しむというところは達成できたこと、確信している。なぜなら、競技中、みんな笑顔がキラキラ輝いていたからだ。中学最後の体育祭をみんなで終えられたこと、そして、組長という責任ある立場を任せてくれたこと。みんなに感謝している。1・2年生は白鷗の伝統を引き継ぎ、来年度も思いっきり体育祭を楽しんでほしい。



林間学校

志賀高原(7月30日~8月1日)

最後の林間学校

3年2組 金井 琉璃

中学校最後の林間学校であるため、思いっきり楽しもうと思った。キャンプファイアーと室内レクリエーションの有志に参加したことが一番の思い出だ。お面を被って参加したが、実は正面や下の方が見えず、一歩一歩注意しながら踊っていた。



大切な1ページ

2年2組 橋本 颯希

私の一番の思い出は、ウォークラリーだ。なぜなら、実行委員として問題作成に携わることができたからだ。問題作成は難しかったが、とてもやりがいがあった。

そして今回は、自然豊かな景色を眺めたり、友達と話しながらのんびり歩いたりすることもでき、楽しかった。

この林間学校を通して、私たちの住んでいる所にはない大自然を堪能して、心が穏やかになった。



初めての林間学校

1年1組 石原 千歳

初めての林間学校を終えて、印象に残ったことが二つある。

一つ目は、1日目のキャンプファイアーだ。残念ながら雨のため、室内での開催となった。しかし、雨天にも対応できるように実行委員が準備をしてくれたため、楽しく過ごすことができた。



二つ目は、ウォークラリーである。自然豊かで、花々が美しく咲き、とても眺めが綺麗だった。また、先輩たちが優しくしてくれたことも嬉しかった。そのため、来年は自分が1年生をリードしたいと思った。

体育デー

7月9日(火)、新校舎アリーナで体育デーが開催され、熱戦が繰り広げられた。結果は以下のとおり。

卓球 男子

- 優勝 鴛田 拓也(2-1)
- 準優勝 中村 創祐(1-1)
- 第3位 小暮 彦輝(1-1)

卓球 女子

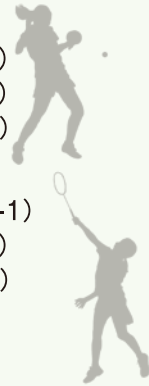
- 優勝 阿部 珠々南(2-1)
- 準優勝 浅岡 理子(3-1)
- 第3位 大山 恵実(3-2)

バドミントン 男子

- 優勝 悦永 遼・穂積 昌治(2-1)
- 準優勝 照井 風翔・野口 啓心(3-1)
- 第3位 大淵 匠・小島 堅心(3-2)

バドミントン 女子

- 優勝 金井 琉璃・星野 明利(3-2)
- 準優勝 関口 心虹・中村 真優(2-2)
- 第3位 野村 璃音・丸島 沙那(2-2)



審査結果

- 【最優秀賞】 3年2組
- 【優秀賞】 2年1組
- 【最優秀指揮者賞】 泉田 彩芽
- 【最優秀伴奏者賞】 伊澤 晶子



合唱祭

11月14日(木)

曲名

- 1年1組 「小さな恋のうた」
- 1年2組 「ハルノヒ」
- 2年1組 「風になる」
- 2年2組 「虹」
- 3年1組 「夢の世界」
- 3年2組 「イエスタデイ」

生徒演奏

- ヴァイオリン・ピアノ 「情熱大陸」
- 作曲：葉加瀬太郎
- 2年1組 伊澤 晶子
- 折田 千聖

～「税についての作文」では、本校から2名が表彰されました～

★足利税務署長賞 3年2組 悦永 悠さん

★足利市長賞 3年1組 高橋 庵さん



下に、足利税務署長賞を受賞した悦永 悠さんの作文を掲載します。

足利税務署長賞

「自分のために、人のために」

3年2組 悦永 悠

「税」という言葉を聞いても税が何なのかがよく分からない。私が払っている税は商品を買うときに支払う消費税くらいだし、一体どのように使われているのかをよく知らなかったからだ。しかも、大人が払っている税金など、まだ中学生の私たちには関係ないものだと感じていた。

調べてみると、多くのことに使われている私たちの税金は、社会保障に関わるものに最も多く使われていることが分かった。税は医療、年金、介護、福祉など、私たちが健康に毎日安心して暮らせるように支えてくれている。例えば今、私たち18歳以下の子どもは無償で病院を受診できている。その制度があると、病院に行きやすくなるのでありがたいと母は言う。税金が私たちが子どものために使われていることを知り、嬉しくなった。

ほかに開発途上国の経済援助をするために使われていることも分かった。世界有数の先進国の日本は、開発途上国にダムや病院を造り、世界中の人々の助けになるために税金を使っているのだ。

新校舎 披露式典

校舎は白鷗大学足利高等学校富田キャンパスの機能を移転して、中学との共用校舎であり、2022年10月から工事が始まり、2024年1月に完成した。



なお、4月から校舎の使用を開始している。9月11日には、新校舎披露式典が行われ、約300人が参加した。式典では、施設の紹介がされ、中学生によるピアノ演奏や合唱が披露された。

白鷗大学足利中学校入学試験のご案内

第2回 入学試験	試験日	出願手続き期間 ※インターネット出願
	令和7年 1月25日(土)	令和7年 1月 6日(月)~ 1月12日(日)

TEL.0284-42-1131 詳しくは 白鷗大学足利中学校 検索

に税金を使っているのだ。私が小学生の時に、地震で被害にあったトンガ王国に募金を送るために校内で募金活動をした。募金を集めるにあたって、たくさんの人に募金をしてもらった。子ども自身でもお店を出す「子どもバザー」という行動を計画した。その実行委員会の一人として、皆に理解してもらい、準備を重ね、たくさん募金が集まった。時の達成感忘れられない。しかし、自分たちで色々と計画し、募金を集めて国に送ることは当時小学生だった私たちにとても難しく感じた。私たちが力を尽くすことで、税を払うことによって誰かの力になれることが分かった。税なんて知らないと思うのではなく、これから「自分のために、人のために」という心を大切に、税の役割をしっかりと理解していかなければいけないと思う。